

放課後等デイサービスにおける事故の防止について

(令和6年度集団指導)

子どもや保護者が安心して放課後等デイサービス事業所の支援を受け続けられるようにするためには、事業を運営する中で想定される様々なリスクに日頃から十分に備えることが重要です。

このため、個別支援計画等を踏まえ、一人ひとりの障がい特性を把握した上で、いつ、どのような場面で事故が発生するのか、具体的に予測し未然防止策を検討する必要があります。

今回、事業所における事故防止の取組の充実に資するため、これまでに発生した主なリスクや発生原因等を別紙のとおり取りまとめましたので、マニュアルの整備や見直し等にご活用ください。

また、管理者におかれましては、事業所の取組を全従業者に周知するとともに、日々の点検等により、適時に必要な取組の追加や改善を行うよう努めてください。

放課後等デイサービスにおける事故発生の主なリスク等

- ・過去の事故報告や他県で発生した事案を参考に作成しています。
- ・同じようなリスクであっても、事業所の職員体制や施設・設備の状況、受け入れている児童の障がい特性などにより、その発生原因は様々です。
- ・事故がなぜ発生したのか、その要因を的確に把握した上で再発防止策を検討することになりますので、「発生原因」を参考に事業所の運営実態に応じた事故防止策に取り組んでください。

1 施設内活動

リスク	発生原因	再発防止策（例）
① 行方不明（職員が気付かない）	<ul style="list-style-type: none"> ・出入口の施錠確認を怠った ・一時的に見守りの職員が不在であった ・障がい特性の把握が不十分であった 	<ul style="list-style-type: none"> ・複数の職員で施錠を確認 ・ドアチャイムを設置 ・職員不在とならない、見守りを優先した体制を検討 ・保護者に家庭での行動を再確認し対応を検討
② 療育中のケガ（遊具使用時の安全対策が不十分）	<ul style="list-style-type: none"> ・事前の打ち合わせを怠った ・一時的に見守りの職員が不在であった ・危険予測が不十分（落下の可能性のある遊具を使用） 	<ul style="list-style-type: none"> ・職員の役割分担を明示 ・職員不在とならない、見守りを優先した体制を検討 ・遊具の利用人数を制限 ・厚めのマットレスを設置
③ 遊戯中のケガ（児童の行動確認が不十分）	<ul style="list-style-type: none"> ・障がい特性が職員間で共有されていない ・興奮状態となった場合の対応策が共有されていない ・児童に事前の説明が十分に行われていない 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的に職員会議で障がい特性や支援方法を共有 ・支援方法が不十分であった場合は再検討 ・決まり事を分かりやすく解説した資料を作成
④ 遊戯中のケガ（室内の安全確認が不十分）	<ul style="list-style-type: none"> ・日々の安全点検を怠った ・利便性を優先した備品（移動式ロッカー等）を配置 ・危険箇所（ガラス扉、机や棚の角）への対応不足 	<ul style="list-style-type: none"> ・チェックリストにより危険箇所を点検 ・備品の入替 ・ガラス飛散防止フィルムを貼付するなど

2 施設外活動

リスク	発生原因	再発防止策（例）
① 車内に児童を取り残す （職員が気付かない）	<ul style="list-style-type: none"> ・車内の確認を怠った ・集合時の点呼確認を怠った ・荷物の運搬を優先した 	<ul style="list-style-type: none"> ・見守りを優先した体制や対応を事前に検討 ・荷物は点呼後に運搬
② 熱中症による体調不良	<ul style="list-style-type: none"> ・職員の見守りが不十分 ・帽子もあり、短時間なら大丈夫だろうと判断した 	<ul style="list-style-type: none"> ・適宜休憩し水分を補給 ・熱中症アラーム付温度計を参考に屋内移動を開始
③ 活動先でのケガ（不十分な活動計画）	<ul style="list-style-type: none"> ・事前の下見で危険箇所の確認を怠った ・職員の見守り体制が不十分だった 	<ul style="list-style-type: none"> ・下見では写真や動画を撮影し、複数人で危険箇所の把握と対応策を事前に検討 ・人的に余裕のある活動計画を作成
④ 活動先でのケガ（遊具使用の安全確認不足）	<ul style="list-style-type: none"> ・介助なく、身体に合わない遊具を使用させた ・児童の希望を優先した 	<ul style="list-style-type: none"> ・遊具の使用は安全面を最優先に考える ・身体に合わない遊具は使用させない
⑤ 活動先でのケガ（児童の行動確認が不十分）	<ul style="list-style-type: none"> ・障がい特性が職員間で共有されていない ・突発的な行動を予測した対応策が共有されていない ・児童に事前の説明が十分に行われていない 	<ul style="list-style-type: none"> ・外出前に職員間で障がい特性や支援方法を共有 ・支援方法が不十分であった場合は再検討 ・決まり事を分かりやすく解説した資料を作成

3 送迎時

リスク	発生原因	再発防止策（例）
① 乗降車時のケガ（職員個人任せの送迎）	<ul style="list-style-type: none"> ・複数児童の誘導と荷物積み込みを職員ひとりで同時に行っていた ・児童にドアを閉めさせた 	<ul style="list-style-type: none"> ・送迎マニュアルを再検討 ・児童の誘導を優先 ・一度に複数児童へ対応する場合の体制を検討
② 行方不明（突発的な行動に対応できない）	<ul style="list-style-type: none"> ・職員ひとりで複数児童を迎えに行ったため、突発的な行動に対応できなかった 	<ul style="list-style-type: none"> ・一度に複数児童へ対応する場合の体制を検討 ・障がい特性に応じた送迎体制を検討
③ 交通事故	<ul style="list-style-type: none"> ・後部座席の児童に話しかけられ、運転中に振り返って対応した 	<ul style="list-style-type: none"> ・運転中の注意事項を整理して送迎マニュアルに追加 ・毎日の朝礼で注意喚起

※送迎時の事故防止及び事故対応にあたっては、保険への加入はもとより、以下の対応が考えられます。

- ・運転手に加え、支援を行う職員を同乗し2名体制で送迎を行う
- ・チャイルドロックを使用する
- ・社内外の状況を把握できるようドライブレコーダーの設置を行う